

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	870101904		
法人名	衛検産業株式会社		
事業所名	グループホームハイジの丘		
所在地	水戸市住吉町302番地の1 (電話) 029-247-2448		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月6日	評価確定日	平成19年12月21日

【情報提供票より】 (平成19年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤8人, 非常勤3人, 常勤換算4.8人	

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要 (7月17日現在)

利用者人数	11名	男性 3名	女性 8名
要介護1	3	要介護2	5
要介護3	1	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 80歳	最低 69歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みと南ヶ丘病院, 河原歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは「広い心を持って、仁愛を持ってつくします」を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で、理念に基づく利用者本位の支援に取り組んでいる。
職員は利用者がゆったりと自由な生活が送れるよう配慮するとともに、利用者ができる事を把握し、畑仕事や調理の手伝い、裁縫などの得意なことを発揮できるよう場面づくりを行っている。
誰でも暇な時間にはホームに立ち寄って下さいと施設長が言う様に、地域などに開放しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を真摯に受け止め、権利や義務の明示、危険な物品の管理など、改善できるところは改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長及びユニットの責任者、介護支援専門員との協議により自己評価を作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は行政職員や民生委員等の地域の代表者、家族などに委員を依頼し、2ヶ月に1回開催している。 会議で出た意見は、ホームのサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見や苦情に関する相談窓口と担当者を設置するとともに、重要事項説明書に明示している。 意見箱を玄関に設置しているが、家族からの意見を聞く取り組みが十分ではないので、意見や要望等を言いにくい家族に配慮するため、無記名式のアンケートを実施することを提案する。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会長、ガールスカウト、いきいき体操の指導士が週1回、ボランティアで訪問している。 高校の文化祭に招待されたり、中学校の演奏会や町内のお祭りに参加し、地域の方々と交流している。</p>
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは「広い心を持って、仁愛を持ってつくします」を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で、理念に基づく利用者本位の支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有をはかるため、毎朝の引継ぎ時に職員全員で理念を唱和するとともに、管理者は職員や家族と協力し、利用者が理念に基づいて実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長、ガールスカウト、いきいき体操の指導士が週1回、ボランティアで訪問している。 高校の文化祭に招待されたり、中学校の演奏会や町内のお祭りに参加し、地域の方々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットの責任者と施設長、介護支援専門員との協議により自己評価を作成している。 外部評価の結果を真摯に受け止め、改善できるところは改善している。	○	外部評価の評価結果をいつでも誰も見ることができる場所に掲示することを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政職員や民生委員等の地域の代表者、家族などに委員を依頼し、2か月に1回開催している。 会議で出た意見はホームのサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っているが、それ以外に市担当者との交流を図る取り組みが十分ではない。	○	定期的な訪問をしてもらえるよう市側に要請することを提案する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況等を報告するため、月1回ホーム便り「ハイジの丘版」を発行しており、請求書とともに家族に送付している。 通帳を預かっている利用者は、年に1回家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情に関する相談窓口と担当者を設置するとともに、重要事項説明書に明示している。 意見箱を玄関に設置しているが、家族からの意見を聞く取り組みが十分ではない。	○	意見や要望等を言いにくい家族に配慮するため、無記名式のアンケートを取るなどの取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員が馴染みの関係となるよう職員の異動を行っていない。 利用者の混乱を防止するため、退職したことを利用者に告げることはない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の掲示や内部研修を実施しているが、職員一人ひとりの段階に応じた研修を受講する体制までには至っていない。	○	職員の質の確保に取り組むことはホームの質の向上にもつながるので、職員の育成を図るため、研修体制を確立することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回近隣のホームと交流している。	○	更に多くの他施設の職員との合同の研修会を開催することを提案する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用できるよう利用前の見学や1週間程度の体験入居が行える体制となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から畑仕事や野菜の種まきの時期などを学び、実践に生かしている。 優しく言葉かけをするなど和やかな雰囲気づくりを心掛けている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者から暮らし方の希望や要望などを良く聞いて把握するとともに、希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族が面会に来たときに意見や要望を聴取し、毎月20日の会議開催時に職員と話し合うとともに、家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期計画は3か月、長期計画は6か月の期間満了時や利用者の状態の変化に応じた随時見直しを行っている。 また、見直し後は家族に介護計画を説明し、確認の押印を受けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院が困難な利用者への通院支援やデイサービス利用者の近所の方々が、いつでも訪問できるよう開放している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前にかかりつけの病院か協力医療機関を利用者と家族が選んでいる。 また、かかりつけ医を選んだ場合でも、ホームで連携を図るとともに、通院が困難な場合は通院支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部の利用者には、重度化や終末期に向けた対応について、家族との話し合いを行っているが、利用者全員の方針を共有するまでには至っていない。	○	重度化や終末期に対するホームの方針の説明文書を作成するとともに、重要事項説明書に添付し、家族等に確認することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねないよう優しい言葉かけや対応をしている。 ホーム便りの写真は、家族からの希望もあり、入居者の顔がわかるよう掲載している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースで生活が送れよう心がけるとともに、希望に添った支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者のできる事を把握し、ジャガイモの皮むきやテーブル拭き、食器の後片付けなどを利用者とともにやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間について、利用者から希望を取り、毎日午後3:30～5:30ぐらいの間に入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができることや得意なことを把握しており、裁縫や調理、野菜作りなどの役割作りをしている。 また、ホームのお使い(花の購入)や近くのコンビニへの買い物などに出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園への散歩やコンビニへの買い物、花見などの季節に応じた行事を企画し、外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の前に事務所があり、利用者等の出入りを常に確認できる体制となっているため、鍵をかけることなく自由に入出入りしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや緊急連絡網を作成するとともに、年に1回火災や地震の訓練を行っているが、災害時に備えた食品等を備蓄するまでには至っていない。	○	災害が発生したときに備え、水や保存食などを備蓄することを提案する。 また、訓練を実施するにあたり、水や保存食品を利用した炊き出しなど、実地体験もあわせて行うことを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた栄養量に配慮し、糖尿や腎臓の病気を持つ入居者には医師の指示に基づいた献立を提供している。	○	利用者一人ひとりの栄養摂取量が適切であるか、市の栄養士に相談することを提案する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭にもみじの木を植えるなど、利用者に季節感と安らぎを味わうことができるよう、配慮している。 また、廊下、トイレ、風呂場には手すりを設置するなど安全に配慮するとともに、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にベッドやタンス、利用者の思い出の品々を自由に持ち込んでおり、居心地良く過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。